

平成 30 年度 地域貢献活動支援報告書

地域イノベーション推進機構長 殿

所 属 人文学部文化学科

氏 名 塚本 明

活動テーマ	海女漁村の歴史的古文書の調査研究 －志摩市越賀郷蔵文書の文化財指定に向けて－
実施期間	平成 30 年 6 月 1 日 ～ 平成 31 年 3 月 31 日
活動内容	<p>(1) 具体的な活動実施内容</p> <p>地域貢献活動支援事業に採択決定後、志摩市教育委員会との調整を行った上で、平成 30 年 9 月 25 日～26 日に三重大学の学生・院生 5 名と志摩市教育委員会職員と共に第 1 回現地調査を行った。未整理分約 300 点について概況を調査し、40 点余の詳細調書を取ると共に、越賀村・御座村間の磯場争論記録 42 冊については全点撮影した。</p> <p>第 2 回現地調査は、平成 31 年 3 月 8 日～9 日に、三重大学学生・院生 10 名に加え、志摩市教育委員会・志摩市歴史民俗資料館の関係者 5 名の参加を得て実施した。未整理箱 1 箱分約 300 点の調査カードを作成し、整理済みの分についても点検・補遺作業を行った。志摩漁村と伊勢河崎との間での、海女漁獲物である海藻の前貸し販売に関する史料などを見出すことができた。なお、調査中に国立歴史民俗博物館の松田睦彦准教授が訪問し、韓国民俗博物館と共催の展示のため、明治半ばの志摩海女の朝鮮出漁に関する史料を閲覧した。</p> <p>(2) 地域への貢献(地域の発展・活性化への寄与, 広がり)</p> <p>志摩市教育委員会で検討している文化財指定の前提作業である。また当該文書は鳥羽志摩地域随一の歴史資料で、特に海女漁に関するものを多数含み、史料の解明を通して海女文化を核とした地域振興に大いに寄与できる。志摩市歴史民俗資料館の学芸員は、まだ若く経験が不足しているため、文化財の取り扱いや調査法を習得する上でも意義深い機会と思われ、塚本もその点を配慮して指導・助言にあたった。国立歴史民俗博物館の松田准教授に対しては関連史料についての情報を提供し、志摩に残る古文書の価値が全国レベルで評価される道を開いた。</p> <p>(3) 共同実施者との連携状況</p> <p>調査自体を含め、共同実施者と連携を密にしている。またその活用を巡り、随時情報交換を行っている。</p> <p>(4) 大学の教育・研究成果のかかわり</p> <p>学生・院生が貴重な原文書を扱うことによる学習効果は非常に大きい。調査で撮影した写真資料は、大学の演習において検討教材として用いる予定である。行政担当者との合同作業は、一種のインターンシップにもなっている。</p>

(5) イベント等開催実績(名称, 実施場所, 参加人数等)

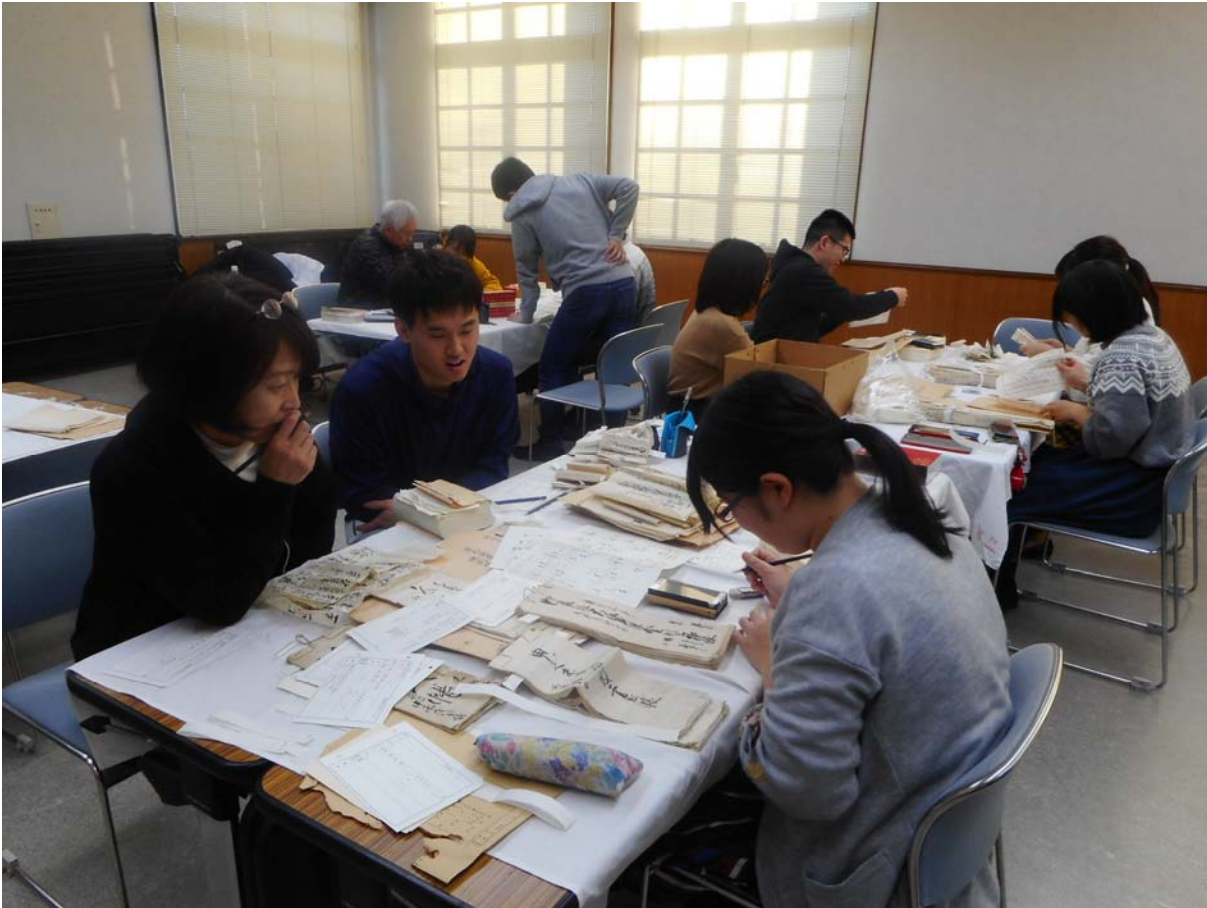
(1) で記した調査事業。

(6) これまでの取組みによって得られた具体的な成果について

※継続4年目以降(認定)の活動については、これまでの継続した取組みによって得られた具体的な成果について記述願います。

志摩市の文化財指定に向けての基礎作業を進めているとともに、古文書の内容から、海女漁、海女文化の歴史の実態について新たな知見を得ている。今後、市民向けの講演等でもその成果を反映させていく予定である。

越賀郷蔵文書調査



越賀郷蔵内部

